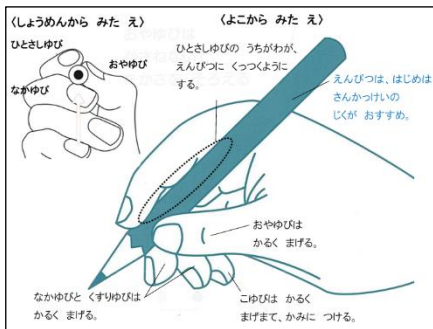


「運筆ドリル」の工夫点

藤井 浩 治

工夫ポイント①(持ち方と用具が運筆の基本)



ココヨ『鉛筆シャープ』

三角形の太い軸で、子どもでも持ちやすく、
芯が太くて、なめらか書くことができる。
芯は 0.9mm と 1.3mm があり、
最初は 1.3mm がおすすめ。

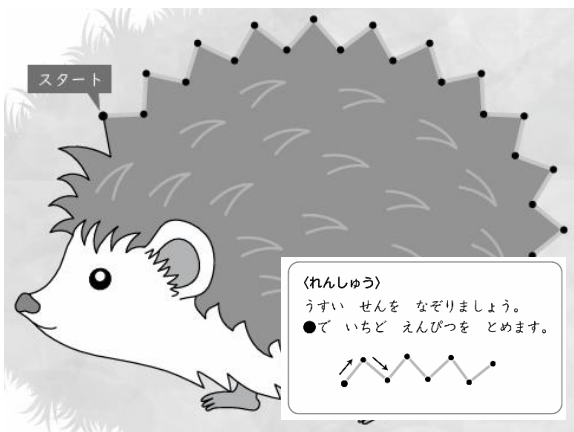
黒:PS-P101D-1P
緑:PS-P101DG-1P
2B 芯 2 本入り



鉛筆は指3本(親指・人差し指・中指)の動きで運筆します。鉛筆を強く握り込んでしまつては、指が自由に動かず、指の巧緻性を高めることができません。そこで、鉛筆の持ち方を分かりやすく図示しました。

また、「運筆を補助」する筆記具として「鉛筆シャープ(ココヨ)」を紹介しました。鉛筆シャープは「軸が三角形・太い・芯が柔らかい」という特性があります。正しい持ち方を矯正しやすい三角形。幼児は握力が弱いめしっかりと3本の指で固定しやすい太さ。幼児は固い芯では濃く書くことができず、力が入りすぎることで持ち方を崩してしまわないため、太く柔らかめの2B 芯。という特性です。

工夫ポイント②(短い線を反復する運筆基本練習)



文字を書く前の「運筆基本練習」のページを設定しています。運筆には3本の指が鉛筆を自在に動かしていくことが大切です。しかし、幼児の指は自在に動かすことには慣れていません。そこで「運筆基本練習」をする必要があります。しかし、大きい図形を書かせると指ではなく、腕や手首の運動になってしまいます。そこで、幼児の指の動く距離に合わせた短い基本線の反復にしています。

工夫ポイント③(自分で発見する字形のポイント)



「チェックポイント」のコーナーで、文字を書く前に自分で「字形のポイント」を発見するようにしました。人に指摘されるのではなく、自分で気づくことでやる気を高めます。○と△を比較して、親子でクイズを解くように話し合っていると更に思考が高まり効果的です。

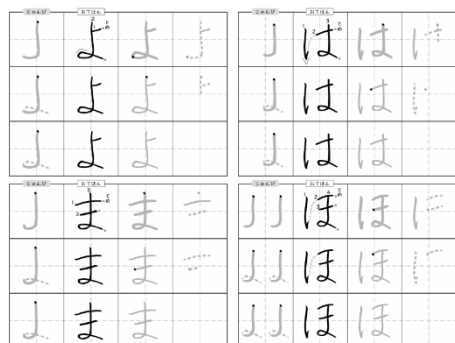
工夫ポイント④(ひらがなには準備体操が必要)



平仮名は「漢字（楷書体）」を速書き、省略して完成しました。ですからある意味「ひらがな」は、幼児に「行書・草書体」を書かせていることになり、非常に難易度が高いです。「ひらがな」の特徴として草書体のように「点画に丸み」があり、楷書の複数の点画が連続してできているため、「一画が長く、途中で折れたり方向が変わったり」します。そこで、「ひらがな」コーナーには「じゅんび」として、その文字の「書き出し」や「長い画」を取り出して、「準備体操」をしてから「ひらがな」を書くように構成しています。

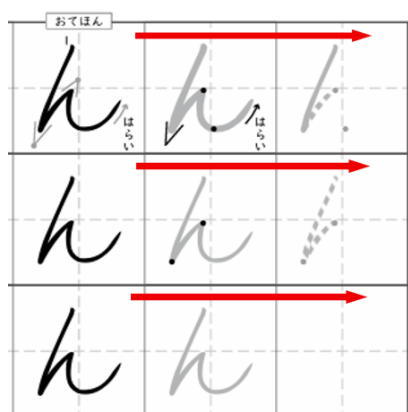


工夫ポイント⑤(ひらがなを仲間分けして学習)



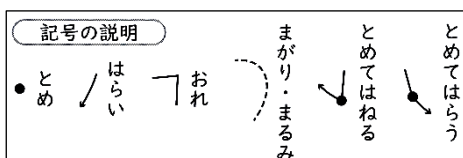
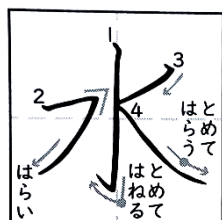
上記の通り、「ひらがな」は漢字よりも「丸み・回転する」画が多くあります。幼児には直線よりも「曲線」の方が書きにくく、微妙な「丸み」は認識することが困難です。そこで「左まわしのひらがな」「折れるひらがな」「右まわしのひらがな(右まわし・むすび)」「丸みのあるひらがな」と4つの仲間に分けて学習するように構成しています。

工夫ポイント⑥(スモールステップで学習)



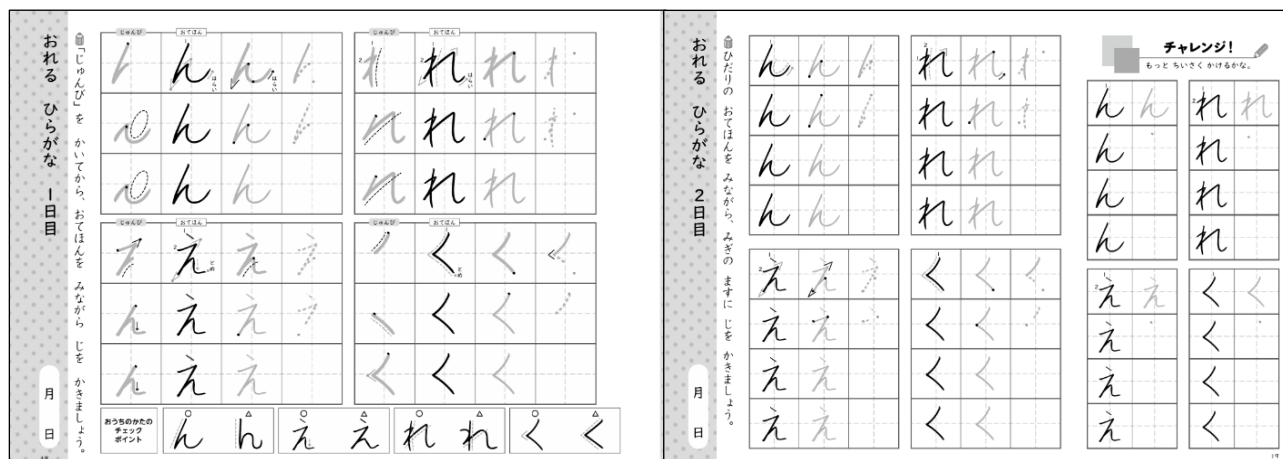
工夫ポイント④で述べた「じゅんび」を書いた後に「おてほん」を見て、1列目—2列目—3列目と練習していきます。1列目は「なぞり書き」を「太く」することでなぞりやすくし、その後「途中までなぞり線—点線—続きを考えて書く」学習。2列目は「細いなぞり書き」、その後「途中まで点線—続きを考えて書く」学習。3列目は「細いなぞり書き」、その後「自分で考えて書く」学習。というようにスモールステップを踏んで少しずつ書くことができるようにしています。

工夫ポイント⑦(とめ・はね・はらいを丁寧に学習)



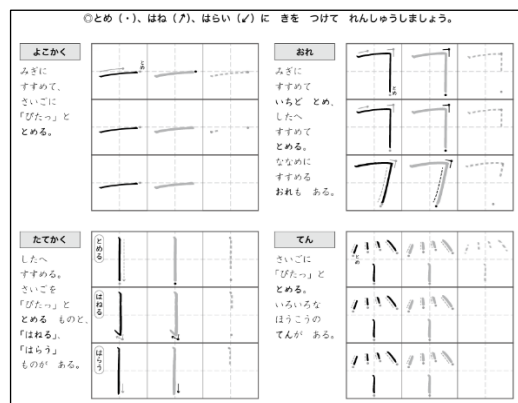
文字を学習し始めた頃は、字形に目が行きやすく、終筆がおろそかになりがちです。そこで「とめ・はね・はらい」等を丁寧に示しました。

工夫ポイント⑧(発展的な学習でさらに運筆能力を高める)



「運筆ドリル」の左側ページ(1日目)は、一般的に小学校1年生の学習で使用される「24ミリます」の大きさを書きます。右ページ(2日目)は、2年生で使用される「20ミリます」、3年生で使用される「18ミリます」と「ます」の大きさが小さくなります。学年が進むにつれ文字を書く量も多くなりますので、書く文字も小さくなっていきます。挑戦できそうな子どもには「発展的な学習」が用意されています。指の巧緻性が高まっていないと文字を小さく書くことはできません。逆にいえば「小さな文字」に挑戦することで更に運筆能力を高めることになります。「少しだけ負荷」をかけることで、子どもたちはその能力を高める力を持っています。また、少し高度な学習を達成した時に意欲も高まります。「20ミリ」と「18ミリ」2種類の「発展的な学習」を用意していますので、子どもの様子を見ながら挑戦できそうなものからすすめてみてください。

工夫ポイント⑨(基本点画を使ってカタカナ・漢字を書く)



「カタカナ」と「漢字」は「基本点画(横画・縦画・折れ・左払い・右払い・曲がり・そり・点など)の組み合わせで構成されています。そこで、「基本点画」で運筆の準備体操をしてから「カタカナ・漢字」の学習に進むようにしています。

「カタカナ・漢字」の点画は「ひらがな」に比べて直線的で短いため、「基本点画」をしっかり反復練習することが運筆には効果的です。

工夫ポイント⑩(まとめは漢字かな交じり文)

「運筆ドリル」の最後の学習は「漢字かな交じり文」です。学習してきた「ひらがな」と「漢字」を使って「大きな山がある」「川の水がきれい」などの短文を書きます。「こんなに文字を書くことができるようになったね」と頑張った子どもを褒めてあげてください。